2022年2月号

ＦＰまつもと通信

知って得する「お得な情報」と「ｒ（アール＝資本所得）」をお届けします。

ご挨拶

町で受験生の姿を見ることが多くなる季節です。

合格祈願と言えば絵馬が定番ですが、語呂合わせからお菓子も人気ですね。最近はマンホールも注目を集めているようです。

数年前からデザインマンホールが注目されてカードなどを作っている自治体も多くありますが、マンホールの形状や特徴（◎「まる」、落ちない、滑らない）、からマンホール型のお守りを作成し配布する自治体も出てきました。

コロナ禍の受験で大変ですが、受験生には健康管理には十分に気を付けて、いままでの努力の成果を出し切って欲しいですね。

今月号のちょっと気になるお金のコラム

今年から学校で金融経済教育が始まります。子どもから「なんで銀行に預けるとお金が殖えるの？」「うちのライフプランはどうなっているの？」などと聞かれるようになるのでしょうか？

2月16日(水)から確定申告です（3月15日まで）

還付申告は、確定申告の期間外でも可能です。申告期間中の税務署の蜜を避けるため期間外に申告、またはスマホでの申告を検討してはいかがでしょうか？

すでに年末調整をした方でも確定申告をしたほうが良いのは以下のような場合です。

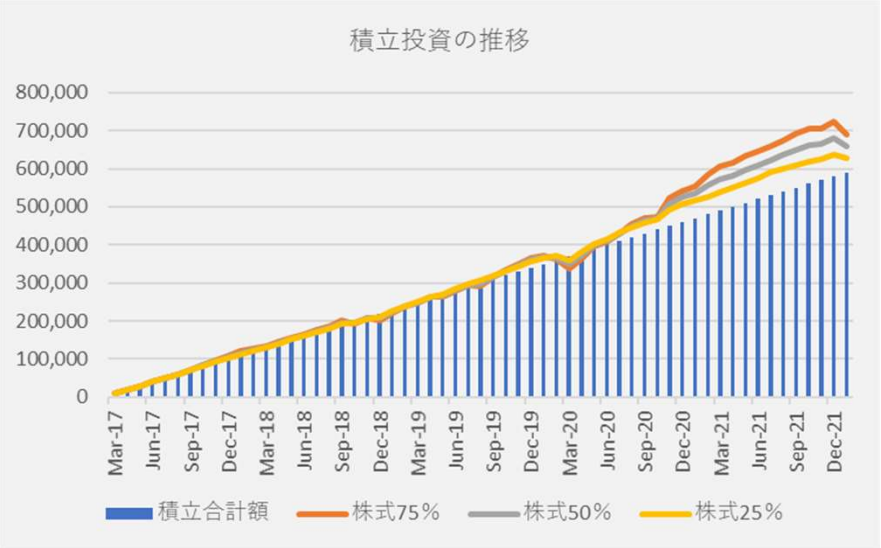
- 年末調整で控除書類の提出ができなかった場合
- 年末調整以降に扶養家族ができた場合
- ふるさと納税をして「ワンストップ特例制度」を利用していない場合
- 寄付をした場合
- 住宅ローンを組んだ場合
- 転勤等で転居費がかかった場合（給与所得者の特定支出控除という控除項目になります。職務に必要な資格取得、書籍、単身の人の帰宅費用などがあります）
- 医療費の支払いが10万円を超えている場合
- 災害や盗難で被害にあった場合
- 年末調整をしていない場合（中途退職して年内に再就職していない場合など）

このような場合には、還付が受けられることがあります。対象になるか気になる場合には、税務署に問合せをしてみてください（思いのほか丁寧に教えてくれます）。

ＦＰ松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之
〒390-1702
長野県松本市梓川梓856-26
0263-76-1250
090-8741-7358
info@fp-matsumoto.com
https://fp-matsumoto.com

2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。
国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすくて、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2021年11月末	570,000	704,293	663,937	625,648
2021年12月末	580,000	723,766	679,721	637,917
2022年1月末	590,000	688,302	657,550	627,429

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

投資期間に応じた資産配分
積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

大幅に値下がりした場合
積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

	日経平均	NYダウ	ドル円
12月末	28,791.71	36,338.30	115.07
1月末	27,001.98	35,131.86	115.12
	-6.22%	-3.32%	

2022年は波乱の幕開け

NYダウ平均株価は、年明け1月4日に36799.66の高値をつけましたがその後は、FRBの金融引締め姿勢が明確になったこと、ウクライナ問題、オミクロン株の拡大、などにより大きく値下がりしました。

特に懸念されているのがインフレです。良い景気拡大なら良いのですが、コロナ感染拡大による生産の遅れや在庫水準の低下、原油高、などによる物価上昇は株式市場にとっては重荷になる可能性があります。

金利上昇により下落が懸念されるIT関連株ですが米国巨大IT企業の12月期決算は概ね好調のようです。

これを受け、NYダウ平均株価は35000ドル台まで戻して1月を終えました。

当面は米国の金利上昇、量的引締め、が注目されます。

想定を超えるペースだと株価は下落することがあるかもしれませんが、長期の積立では短期の値動き、それを解説するニュースに惑わされずに継続すること、さらに値下がり時には増額を検討すること、が成果に結びつくと考えています。

当コラムは、商品選択の考え方、価格変動やニュースなどにどう対応するべきかについての一つの考え方をお伝えするもので、特定の運用商品、運営管理機関を推奨するものではありません。また、特定の商品の将来のパフォーマンスを約束するものでないことをご理解の上、ご覧ください。記載の情報（税制・社会保障制度・金融商品・マーケット・価格情報等）は発行日時点での情報に基づくもので将来は変更になることもあります。数値は公表されているデータに基づき当社にて計算・加工をしていますが、正確性を保証するものではありません。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

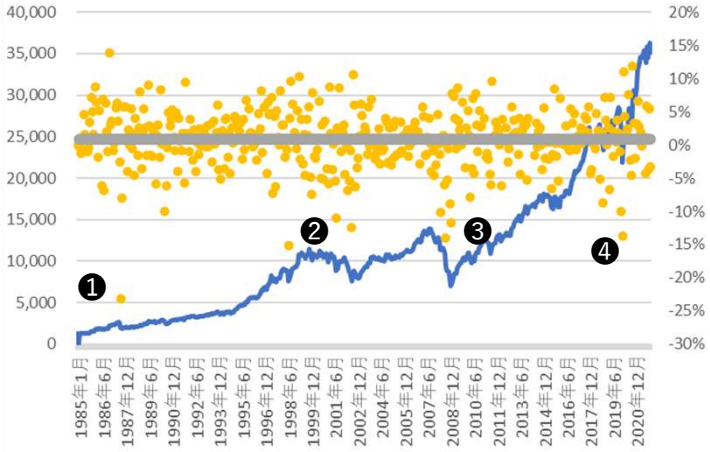
1月は大きく下がる日もあり、「このまま続けてて大丈夫かな？」と少し心配になった人もいるかもしれません。

今月は株式市場の特徴を数字で把握しておきたいと思います。

株式市場は日々いろいろな理由で値動きをしています。長期投資で成果を得るためには、値動きの理由の確認や予想ではなく、値動きの特徴を理解しておくことが大切です。

下図は1985年から2020年までのNYダウ平均株価（ドル建）の推移と月次リターンを表しています。

•青線：世界株指数の推移
•オレンジ点：月次リターン
•グレー線：月次リターンの平均（0.84%）



❶はブラックマンデーで、1か月に23%の下落、❷はITバブルの崩壊、❸はリーマンショック、❹はコロナショックです。

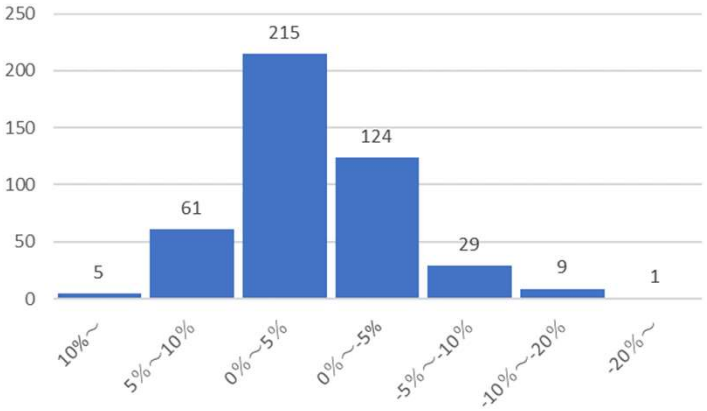
このグラフを見ると以下のようなことがわかります。

- 株価は時として大きな下落があるが長期では値上がりしている。
- 毎月の値動きはだいたい平均近くにあるが時々大きな値動きをすることがある。
- 月次リターンの平均はプラスである。

平均リターンがプラス（＝期待値がプラス）ということはできるだけ長く株式市場にとどまっていることが損をしないために大切だということになります。

よく長期投資が大切と言いますが、ここでもそのことを確認することができます。

下図は月次リターン（オレンジ点）の分布になります。



444カ月分のデータ中、5%以上値上がりしたのは66回なので、7カ月に1度ぐらいは「今月はかなり上がったな」と感じることになります。

一方5%以上値下がりしたのは、39回、1年に一度くらい「随分下がったな」「大丈夫かな？」と感じていることになります。

残りの344回は、-5%～＋5%の間で全体の77%、特に大きな値動きを感じなかった時期になります。大きく動くのは全体の2割強程度、値下がりだけに限れば8.7%です。

短期投資では、次のオレンジ点がどうなるか、を予想することが大切ですが、長期投資ではたまに起こる大きな下落を我慢し、長く続けることが成功のカギであることがわかります。

ちょっと気になるお金のコラム

今年はお金を取り巻く環境が大きく変わります。一つは18歳成人、もう一つは学校で金融経済教育がスタートすることです。

子どもから、

「なんで銀行に預けるとお金が殖えるの？」
「うちのライフプランはどうなっているの？」

などと聞かれるようになるのでしょうか？

今月は金融庁や財務局が公開している小学生向けのお金・税金に関するクイズをいくつか紹介します。

株式と債券を直接金融、間接金融それぞれに正しく当てはまるのはどっち？

1. 株式は直接金融、債券も直接金融
2. 株式は間接金融、債券は直接金融
3. 株式は直接金融、債券は間接金融

お金を銀行に預けることは何という？

1. 借金
2. 銀行にお金を貸すから貸金
3. 銀行にお金を預けるから預金

現金を持っていなくても買い物ができるのは？

1. 身分証明書をお店の人に見せる
2. 土下座すればなんとかなる
3. クレジットカードで買い物できる

これらは、カネールのKIN★YOUランドゲーム（金融庁）の10点問題です。10点問題から50点問題まであり少しづつ難しくなっていきます。

国税庁の「ZEI君の税金クイズ」も観てみましょう。

高校や大学では授業料を払いますが、この授業料にも消費税はかかっている（正答率54.5%）

サラリーマンのお父さんは税金を毎月、会社を通じて納めています。この制度を何というでしょう（正答率56.0%）

たばこ１箱（５００円）にかかる税金は、おおよそどのくらいになるでしょう（正答率49.6%）

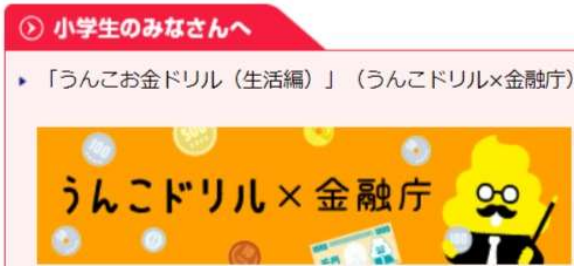
その他にも、ビール税がある都市は？など面白雑学のような問題もあります。

「ZEI君の税金クイズ」は正答率がでているのもちょっと面白いですね。

興味がある人は、『金融庁 小学生向け』と検索してみてください。
https://www.fsa.go.jp/teach/shougakusei.html

「うんこお金ドリル」、オンライン日銀見学など、子ども向けの金融経済教育に関連する情報が一覧できます。

子どもに聞かれる前に少し見ておいても良いかもしれませんね。



https://www.fsa.go.jp/teach/shougakusei.html